◇お國の戀日記（七巻）

帝キネ現代映畫

原作並脚色者　松平昌之
監督者　大森勝
撮影者　鍋本榮一郎
主演者　高津愛子
紹介　第三百三十號

甘く哀しく事件を織つて行かうとする大森監督得意の手法だが少し作られ過ぎたテーマであつた。國子の性格は或る點成功して居たが、尾形と云ふ人物の色覺的存在が此の軟調なロマンチズムを破壞してゐたのは惜しい。如斯人物を配した點に作者の不自然な技巧が介在してゐると云はねばならないし、隨つて監督者も是故に甚だ低級なスリルを狙つたといふ結果に陷らざるを得なかつたらしい。が物語の持つ女性的心理把握は相當の効果を擧げてゐるし、女給京子もかなり動いてゐた。尾形の役柄は惡かつたが演出は相當だつた。時代劇の俳優としてよりも一層の未來がある樣であつた。

——水町　青磁——

（寫眞版紹介號）
興行價値——添物として仲々面白い。大いに青年男女に喜ばれるものである。
（五月十五日　大阪芦邊劇場、神戸相生座）